4. 評価指標

本計画の「評価指標」として、下表のとおり目標値を設定し、達成状況を評価します。

指標		現状値	中間目標値 (2031年度)	目標値 (2036 年度)	特に対応する 目標
指標1:公共交通の乗客数	JR	4,351千人/年	現状値以上	現状値以上	目標 1、2、3
	山陽電鉄	4,599千人/年	現状値以上	現状値以上	
	路線バス	66,337人/年	現状値以上	現状値以上	
	じょうとんバス	120,012 人/年	検討中	検討中	
指標2:公共交通の収支差	路線バス	▲25,183 千円	現状維持	現状維持	
	じょうとんバス	▲62,556千円	▲96,000 千円以下	▲100,000 千円以下	
指標3:公共交通に係る 市の財政負担額	路線バス	3,444 千円	現状維持	現状維持	
	じょうとんバス	62,556 千円	96,000 千円以下	100,000 千円以下	
指標4:交通結節点整備		0箇所	1箇所	2箇所	目標1、2
指標5:高齢者割引の利用者数		14,771 人/年	現状値以上	現状値以上	目標1、2、3
指標6:市民の公共交通利用意向率		62.6%	現状値以上	現状値以上	目標 2

- ※公共交通の収支差、市の財政負担額はじょうとんバスの実績を評価
- ※高齢者割引の利用者数はじょうとんバスに限る
- ※市民の公共交通利用意向率は5年に1度の評価

5.計画の推進体制

本計画は、高砂市地域公共交通活性化協議会が主体となっ て実施します。市民の皆さま、交通事業者、高砂市を含む行政 は相互に連携し、安全、安心に利用し続けることができる公 共交通の実現を図ります。

<高砂市地域公共交通活性化協議会の体制と役割>

市民や 利用者

- 公共交通事業への理解や関心を深める 積極的に公共交通を利用する
- 積極的に公共交通事業に参画する

公共交通 行政 事業者

- ・関係者との協議・調整を行う
- ・公共交通運営を客観的に評価する
- ・公共交通事業への補助・支援を検討する
- ・安全で快適なサービスを提供する ・よりよい公共交通に向けて検討、協議する

6. 事業進捗の評価方法

本計画の推進にあたっては、事業の計画(Plan)の後に、事業を実施(Do)し、その <PDCA サイクルのイメージ> 中で実施結果の評価(Check)を行い、目標達成状況を踏まえて事業の見直し・改善 (Action)を行います。

このPDCAサイクルを繰り返し実施することで持続的な公共交通の維持・改善を図 ります。



高砂市地域公共交通計画(素案)(概要版)

1. 計画の概要

○ 計画の背景・目的

高砂市では、全国的な傾向と同様に人口減少や高齢化社会、 交通事業者の運転士不足、新型コロナウイルス感染症の流行を 通した公共交通利用者の減少等、地域公共交通を取り巻く状況 は厳しさを増しています。また、自家用車への依存傾向や自転 車に頼った生活スタイルが定着しており、公共交通への転換が 求められています。

高砂市において、将来にわたって地域の活力を維持していく ためには、人々の暮らしや活動を支える地域公共交通ネットワ 一クの形成と交通サービスの維持が不可欠であり、その実現の ためには、地域の住民、交通事業者、そして市をはじめとした行 政等の関係者が、将来の地域公共交通の在り方や方向性を理解 し、お互いに支え合いながら、地域公共交通政策に取り組んで いく必要があります。

そこで、持続的で効率的かつ効果的な地域公共交通サービス の提供を目指すことを目的に「地域公共交通のマスタープラン」 として「高砂市地域公共交通計画」を策定しました。

○計画区域

高砂市全域(右図)

○計画期間

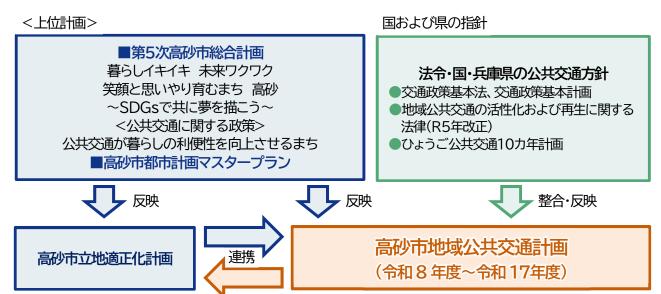
令和8年度(2026年度)から 令和17年度(2035年度)まで



※じょうとんバスミニ 61系統は、令和5年8月より試験運行開始された系統

2. 計画の位置付け

本計画は、高砂市の上位関連計画、法令・国・兵庫県の公共交通方針との整合を図り、以下のように位置付けています。



3. 計画の体系

高砂市のまちづくり関連計画の方針

【第5次 高砂市総合計画】

「暮らしイキイキ 未来ワクワク 笑顔と思いやり育むまち 高砂」 ~SDGs で共に夢を描こう~

【高砂市都市計画マスタープラン】

「歴史・文化が息づく活力と潤いのある街 高砂」 ~地域の魅力が光る人にやさしい都市づくり~

【高砂市立地滴正化計画】

「いつまでも暮らしやすい都市構造の維持・形成」

【第2次高砂市地球温暖化対策実行計画】

「移動がより効果的で快適になり、人と公共交通優先の取組が進展し、 出かけたくなる魅力と活力あふれるまちの実現」

> 令和3年7月30日 「2050年高砂市ゼロカーボンシティ宣言」

公共交通が果たすべき役割

役割1:市内・市外への移動手段としての役割

役割2:地域拠点間を結び、ネットワークでまちを支える役割

役割3:自家用車に代わるエコな移動手段を担う役割

理念

「みんなでつくる、つながり広げる公共交通」

市内・市外の広い範囲にまでつながる高砂市の公共交通を、 市民の皆さま、交通事業者、行政等の各関係者が力を合わせ みんなでつくっていきます

計画の目標

公共交通ネットワークと拠点づくり

安心して利用し続けられる

基本方針1

便利で人にやさしい公共交通のネットワークを形成する

基本方針 2

みんなで公共交通をつかって支える

基本方針3

持続可能な体制や仕組みをつくる

施策

事業 1:公共交通ネットワークの形成【課題①,②,③,④に対応】

- ○鉄道、バス、タクシーの安心・安全で、快適な運送サービス提供の継続
- ○バス路線の再編(路線、ダイヤ、運行頻度)
- ○新たな車両の導入
- ○新たな交通システムの導入検討

じょうとんバスミニ→



₩

課題

- ①人口減少・高齢化社会に伴う 交通弱者増加への対応
- ②乗務員不足・2024年問題に 応じた持続的な公共交通の運
- ③広域幹線、幹線·準幹線、 支線などの位置づけ・役割 における移動手段
- ④市内各地域の利用実態に 応じた交通サービスの構築
- ⑤各交通モード間の接続向上 による円滑な交通体系の確保
- ⑥ターゲット層に合わせた 公共交通サービスの 充実·利用促進
- ⑦公共交通を知って使ってもらう きっかけづくりの促進

基本方針1 便利で人にやさしい公共交通の ネットワークを形成する

基本方針

- 公共交通は市民の生活に不可欠
- 安心・安全で、快適な運送サービスの実施
- ・まちづくりの方針と連携し、主要施設をつなぐ路線網の構築
- 移動需要に応じた運行方法の検討
- 鉄道、バス、タクシーのみならず、地域の実情に即した移動手段の検討

基本方針2

みんなで公共交通をつかって支える

目標2

自ら公共交通を利用しようとする

市民の意識醸成

- 市民の利用によって成立する公共交通の運営
- 公共交通の積極的な利用促進
- 日常的に公共交通を利用する意識の醸成
- 市民と共に公共交通を支える姿の構築
- 基本方針3

持続可能な体制や仕組みをつくる

移動に携わる地域の関係者で支える 公共交通の構築

- 人口減少・少子高齢化への対応
- 公共交通に関する法律や政策の改正への適応
- ・ 働き方改革に対応した交通のあり方の構築
- 市民・交通事業者・行政等の連携による体制づくり
- 分野や形式にとらわれない柔軟なアプローチ
- ・ 新技術の活用と、持続可能な公共交通・担い手の確保

事業 2:交通結節点機能の強化【課題①,③,⑤に対応】

- ○拠点整備(駅前広場、アクセス道路整備等)
- ○バス停の待合環境の整備
- ○サイクル&ライドの推進

サイクル&バスライドの目印(高砂市 HP)→

事業3:隣接市町との連携【課題3,④に対応】

○路線バスの運行継続
○じょうとんバスの加古川市、姫路市への乗り入れ検討

事業4:利用を促す普及活動と制度の導入【課題⑥、⑦に対応】

- ○利用促進につながる啓発活動の継続
- ○分かりやすい情報提供・案内継続及び検討
- ○モビリティ・マネジメントの継続及び検討
- ○決済方法や割引制度の継続及び改善検討

姫路駅のデジタルサイネージ→





事業 5:横断的な取り組み推進【課題①,②,④,⑥に対応】

- ○地域公共交通活性化協議会を通じた事業推進 ○地域の輸送資源との連携検討
- ○福祉分野、教育分野との連携検討
- ○その他民間企業・事業者との連携検討

事業 6:人材・担い手の確保【課題②に対応】

- ○各交通事業者の人材育成、募集の継続
- ○バス運転体験会、仕事体験(神姫バス)の継続
- ○合同就職説明会((公社)兵庫県バス協会)の継続
- ○二種免許取得を補助する制度の導入検討

兵庫県バス協会『いらっしゃいフェス 2024』→



事業 7:新技術(IT 技術等の導入)【すべての課題に関連】 ○EV 車両、自動運転、MaaS 等の検討